

根津美術館

NEZUMUSEUM



開館 70 周年記念特別展

春日の風景

—麗しき聖地のイメージ—

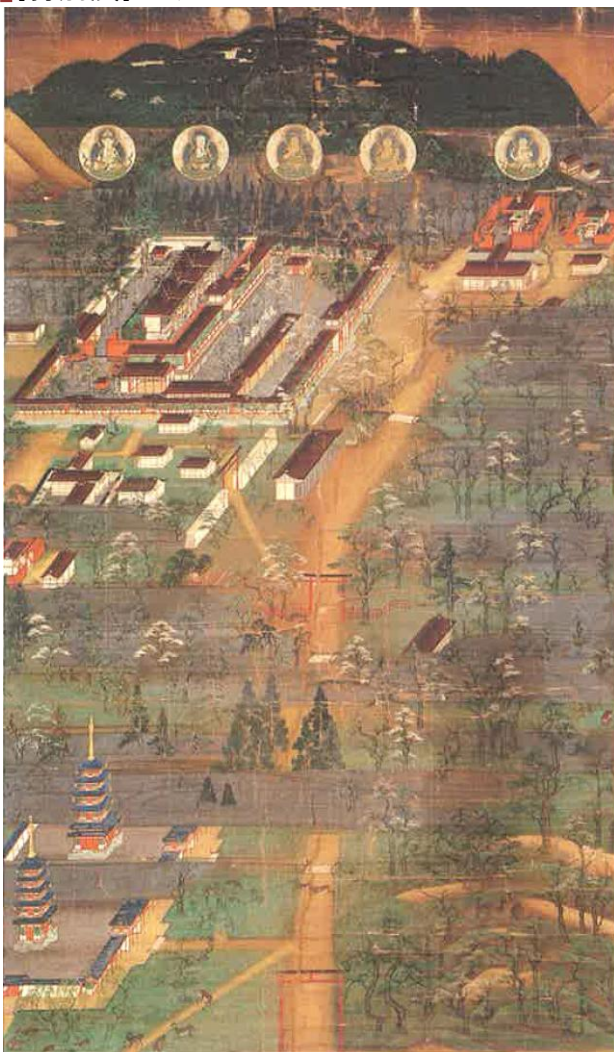
Kasuga Landscapes

Elegant Images of a Sacred Sanctuary

2011年10月8日(土)~11月6日(日)

【休館日】月曜日 ただし10月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)休館

■【特別展】 展示室 1・2



根津美術館では、開館 70 周年を記念する特別展として、2011年10月8日(土)から11月6日(日)まで、「春日の風景 —麗しき聖地のイメージ—」を開催します。

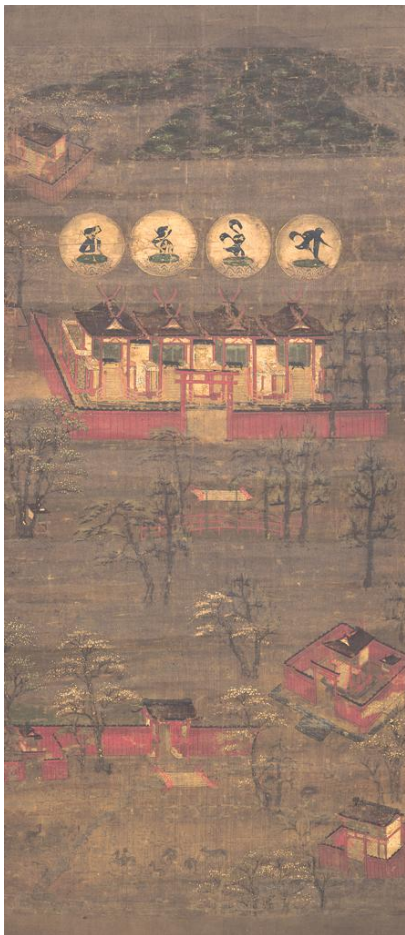
奈良・春日山の西峰御蓋山^{みかさやま}は、古代より神の山として拝され、山裾に広がる春日野は和歌に詠まれる名所でもありました。この地に、名門藤原氏が春日社を創建したのは8世紀半ばといわれています。やがて、神の住む聖地=仏教の浄土とする神仏習合の思想のもと、壮麗な社頭や春日野の景観が描かれ、そこに人々の祈りと憧れがこめられました。

本展覧会では、鎌倉時代に制作された春日宮曼荼羅^{かすがみやまんだら}から、伊勢物語絵に描かれた「春日の里」の場面、そして江戸時代に描かれた南都八景図や名所図屏風に至る、絵画・工芸作品約 35 件をとおして、聖地、名所そして文雅の地である「春日」のイメージの展開と諸相をご覧ください。

宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する名品「春日権現験記絵^{かすがごんげんげんきゑ}」2巻をはじめ、春日宮曼荼羅や春日鹿曼荼羅の優品、また修理を終えたばかりの当館所蔵の重要文化財「春日宮曼荼羅」のお披露目など、見どころの多い展覧会です。

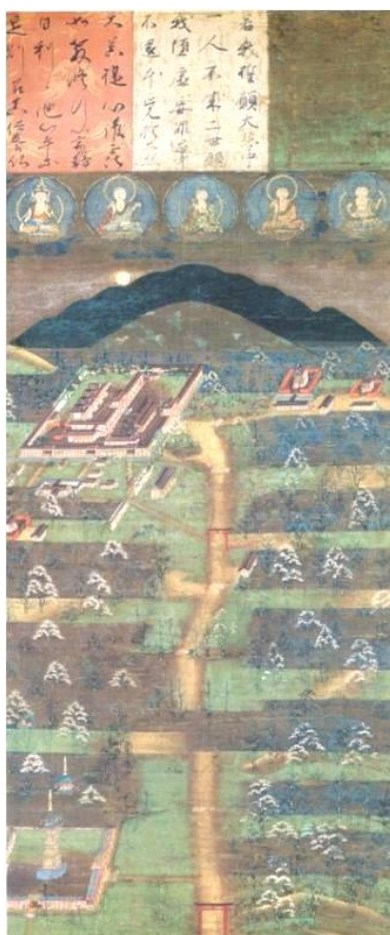
重要文化財 春日宮曼荼羅^{かすがみやまんだら} 鎌倉時代 13世紀 183.3×106.3 cm 奈良・南市町自治会蔵

御蓋山の麓に広がる春日野に、春日社の社殿を俯瞰で描く宮曼荼羅の名品。その精緻な描写と美しい彩色は類品中の白眉といわれる。桜咲く春日野を貫く金色の参道^{まじりみち}が、見る者を本社へと誘う。本社と若宮社の上に表された本地仏が、神と仏の習合^{しゅうごう}関係を示している。



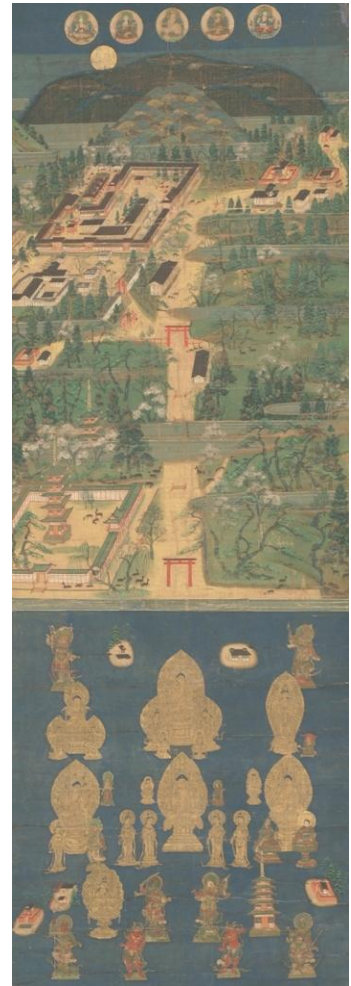
重要文化財 かすがみやまんだら 春日宮曼荼羅 1幅
鎌倉時代 13世紀
64.2×28.9 cm 根津美術館蔵

本社四殿の正面観を描き、その上の月輪に本地仏を示す梵字を表す本図は、初期宮曼荼羅として貴重な遺例である。修理後初めての展観である。



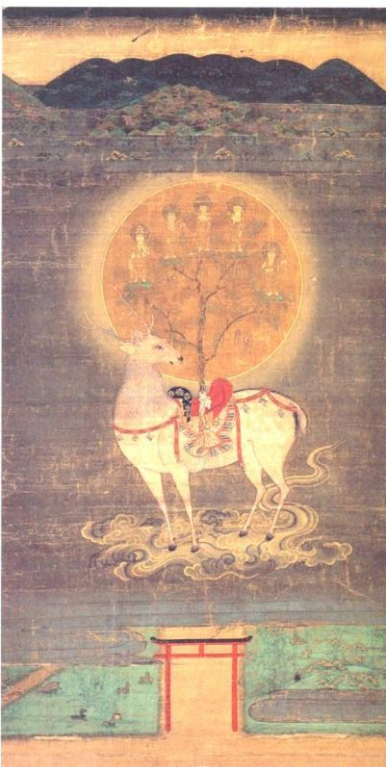
重要文化財 かすがみやまんだら 春日宮曼荼羅 1幅 かんしん 観舜筆
鎌倉時代 正安2年(1300)
107.9×41.2 cm 大阪・湯木美術館蔵

聖地・春日の景観を格調高く表した、宮曼荼羅の美作。王朝人にとってここは、現世にあらわれた浄土であった。

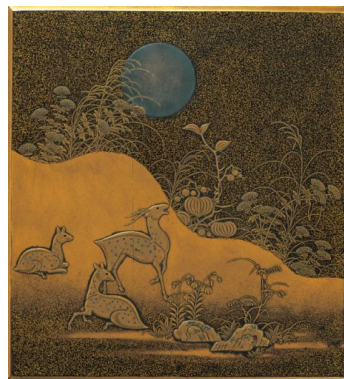


かすがしやじまんだら 春日社寺曼荼羅 1幅
南北朝時代 14世紀
119.8×41.6 cm 根津美術館蔵

藤原氏の氏社・春日社の景観と氏寺・興福寺の仏像を上下に表す。春日社を示すランドマークをたどることは、実際の参詣に等しいことであった。本作品もまた、修理後、初めて公開される。



かすがしかまんだら 春日鹿曼荼羅 1幅
鎌倉時代 13~14世紀
76.5×40.5 cm 奈良国立博物館蔵



重要文化財
かすがやまきえすずりばこ 春日山蒔絵硯箱 1合 室町時代 15世紀
23.9×22.1×4.9cm 根津美術館蔵



いせものがたりえ 伊勢物語絵 巻第1「春日の里」 すみよしじょけい 絵・住吉如慶筆 / おたぎみちとみ 詞・愛宕通福筆
江戸時代 17世紀 30.4×1651.7 cm 東京国立博物館蔵

たけみかづちのみこと 8世紀、武甕槌命は白鹿に乗って鹿島神宮を發ち、春日の地に來臨したと伝えられる。それゆえ春日信仰において鹿は、神の使者であり、神聖な動物とみなされる。やがて鹿は、春日野を表すモチーフとして、物語絵に添えられ、工芸品を飾るようになる。

特別出品

かすがごんげんげんきえ
春日権現験記絵

巻第1・19(全20巻のうち)

東京・宮内庁三の丸尚蔵館蔵

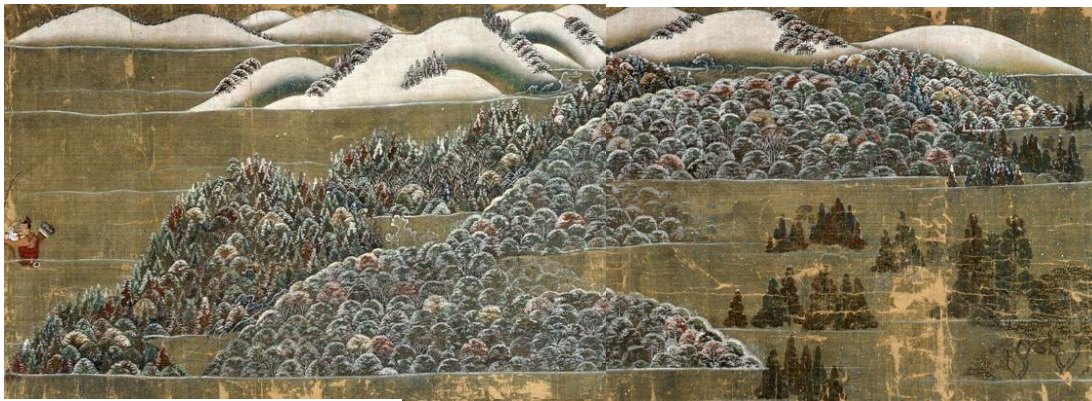
春日社創建の由来や春日神の^{れいげん}霊験（神仏の力による不思議な^{しるし}験の物語）を描いた壮大な絵巻（全20巻）。春日社の社頭や儀式、春日野の景観などを精巧に描く作風は、優美で格調高い。また絵巻には珍しく絹が使用されることも特筆される。当時の春日信仰や風俗を知る一級の史料であるばかりでなく、制作の経緯や作者を明らかにすることにおいても貴重な作品である。

本展では、近年修復を終えた巻のうち、巻第1と巻第19の全容をご覧いただく。

※2巻とも全会期を通して展示。ただし部分的に巻き替えあり。



かすがごんげんげんきえ
春日権現験記絵 巻第1(部分) 絵・^{たかしななかかね}高階隆兼筆/詞・^{たかつかきもとただ}鷹司基忠筆 鎌倉時代 延慶2年(1309)頃 東京・宮内庁三の丸尚蔵館蔵



かすがごんげんげんきえ
春日権現験記絵 巻第19(部分) 絵・^{たかしななかかね}高階隆兼筆/詞・^{たかつかさふゆもと}鷹司冬基筆 鎌倉時代 延慶2年(1309)頃 東京・宮内庁三の丸尚蔵館蔵

春日権現験記絵について

^{さいおんじきんひら}西園寺公衡は藤原氏一門の繁栄を祈願して、詞を前関白^{ことば}鷹司基忠と3人の子、絵を宮廷絵師の^{たかしななかかね}高階隆兼に描かせた。巻第1では壮麗な社殿の描写や、高貴な女性の姿で現われた春日明神、巻第19ではなんととっても雪をいただく春日山のパノラマ景観が見どころである。

「春日権現験記絵」のご紹介にあたり画像を使用される場合は、いずれの媒体におかれましても、個々に宮内庁三の丸尚蔵館への申請が必要となります。詳細は根津美術館「広報」までお問い合わせください。

[関連情報]

◆講演会 1 「王朝人の祈りと憧れ—春日宮曼荼羅の世界」

日時 2011年10月22日(土) 午後2時から午後3時30分
講演 白原 由起子 (根津美術館 学芸課長)

◆講演会 2 「春日野にいつみもろ斎く三諸」

日時 2011年10月29日(土) 午後2時から午後3時30分
講演 花山院 かきんのいん ひろただ 弘匡氏 (春日大社 宮司)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員140名

〈申込方法〉 往復はがきに、希望する「講演会1」または「講演会2」、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記のうえ〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「春日の風景」展係にお申込み下さい。
「講演会1」は2011年10月8日(土)、「講演会2」は10月15日(土)締切(当日消印有効)
※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。
※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

10月14日(金)、10月28日(金)

- ※ いずれも午後1時30分より約60分間イヤホンガイドを使って行います。
- ※ 当日先着30名様に限らせていただきます。
- ※ 午後1時よりホールにて整理券を配布します。
- ※ 参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

[同時開催] ■ テーマ展示

展示室5 「古代織物の美」



しゅうこうきん
蜀紅錦 中国・隋～唐時代 7世紀 根津美術館蔵

法隆寺、正倉院に伝来した織物や染物の裂は、1200年前の染織技術を伝える貴重な遺品です。その色は今なお鮮やかに残っています。館蔵の裂地約30点を選びました。

展示室6 「なごり名残の茶」



かき へたちやわん
柿の蒂茶碗 銘 瀧川 朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵

10月になると、前年の初夏に摘んだお茶も残り少なくなります。それを味わう茶会を「名残」と呼びます。この茶事にふさわしい作品約20点を取り合わせます。

[開催概要]

【展覧会名】	「春日の風景 —麗しき聖地のイメージ—」
【主催】	根津美術館
【協力】	春日大社
【開館期間】	2011年10月8日(土)～11月6日(日)
【開館時間】	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
【休館日】	毎週月曜日 ただし10月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)休館
【入館料】	一般1200円 学生1000円 * 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き * 中学生以下は無料
【前売券】	一般1100円 学生900円 *2011年8月27日(土)～9月25日(日)特別展「名物刀剣」開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
【アクセス】	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
【住所】	〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
【お問合わせ】	TEL 03-3400-2536 (代表)
【ホームページ】	http://www.nezu-muse.or.jp

<次回展>

—受贈記念特別展— 「中国の陶磁・漆・青銅」

2011年11月16日(水)～12月25日(日)

本年、新たに中国美術の優品がコレクションに加わりました。個性豊かな作品の数々を披露いたします

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当:鎌倉/朝倉/白原 TEL 03-3400-2538 広報(直) FAX03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp